

新型コロナとともに歩む社会とは

いまこそ田園回帰に舵を切るとき

文＝編集部

ろうか。

「新型コロナウイルスも、インフルエンザウイルスのように季節的に流行をもたらしようになるかもしれないし、風邪を引き起こすコロナウイルスの一つになるかもしれない。あるいは、人類が集団免疫を獲得したら、ヒトのあいだでは感染できなくなるかもしれない。集団免疫の獲得には、一般的にはワクチンが有効だが、新型コロナウイルスは無症状者や軽症者が多いため、意外に早く集団免疫を獲得する可能性もある。なお、ワクチンの開発や治験には通常数年かかるため、すぐにワクチンができると期待し過ぎないほうがよいだろう」

結局、われわれはこのウイルスと気長につきあつていく覚悟が必要である。変異の早いRNAウイルスの感染に「終息」は考えにくく、目指すは「収束」である。

「3密」を生み出した

「大規模・集中」からの転換

ウイルスとどう折り合いをつけていくかを考える際に、まず顧みるべきは新型

ウイルスに「終息」はなく「収束」あるのみ

新型コロナウイルスをめぐるのは全国で緊急事態宣言が解除され、小康状態に入ったようにみえる。第2波襲来を警戒する見方もあり、まだまだ油断はできないが、ようやく平時として新型コロナとどう向き合っていくかを考える時期に入ったといえる。

新型コロナウイルスについてはまだまだだわかっていないことが多いが、同じコ

ロナウイルスの仲間であるSARSやMERSに比べて致死率はかなり低い。その新型コロナに、なぜこれほど世界各国が手を焼いているのか。

ウイルス学者の高田礼人さんは『新型コロナ19氏の意見』（農文協ブックレット）のなかで、こう語る。このウイルスは新型であるだけに免疫がないこともあるが、感染しても発症率が低く、多くは軽症か無症状であり、そのぶん感染者の捕捉がむずかしい、と。

新型コロナは今後どうなっていくのだ

もの申す